



親の心 子のこころ

「せんせい！ またYくんがいろいろするう！」

N子の訴えに様子を見に行った。

「何かあったの？ Nちゃんいや

だったみたいだけど……」と言うと、

「なんにもしていないよ！」とY

夫。私に怒られるのではないかと

思っ少し涙ぐんでいる。

三月生まれのY夫は表現が幼く、

年長組になってからも、思いがうまく通らないとすぐに手や足を出した。そのため、彼の周りではトラブルが絶えず、関わりのある子どもは保護者は、Y夫を「悪い子」

にして警戒した。Y夫もすっかり「悪い子」になって、私が注意しても今回のように泣いたりなどしなかった。

最近になって、ようやく私に心を許してくれるようになり、仲の良い友だちもでき、自分らしく振る舞えるようになってきた。周りの様子をよく見て、自分の考えを

落ち着いて伝えようとしている姿が見られる。

とりあえず、一緒に遊んでいたA子に、何かあったのかを聞いてみた。

A子は、「せんせいは、ちよつとだまって」という

感じで私を制すると、すつとN子に近寄って言った。

「Nちゃん、Yくんは

ね、Nちゃんがお

もっているようなひ

とじゃないよ。いつ

しよにあそんでみな

よ、おもしろいよ」

一人ひとりの子どもたちが、いろいろな成長の段階に

あることを、保護者に伝えるのは難しい。それだけ不安定な中で子育てをしている状況を私たちは理解しなければいけないのだろう。悲しくなることも多いが、A子と

A子の保護者の気持ちに触れ、少し元気になった出来事だった。

(幼稚園勤務)

